

小学部 第1～6学年 体育科 学習指導案

日 時：○月○日（○）○校時

場 所：小体育館

指導者：T1 ○○○○ T2 ○○○○ T3 ○○○○
T4 ○○○○ T5 ○○○○ T6 ○○○○
T7 ○○○○ T8 ○○○○ T9 ○○○○
T10 ○○○○

1 題材名 サークット運動 ～アンパンマンとマリオの大冒険～

2 題材の目標

- (1) マットで転がる、はう、平均台や階段でバランスをとりながら歩く、飛び降りる、ボールで腕や手指をコントロールするなどの運動に取り組む。
- (2) 自分の目標に向かって「やってみよう！」と挑戦する気持ちを持ち、意欲的に取り組む。
- (3) サークット運動のルールを守り、安全に運動する。

3 児童と題材

(1) 児童について

本学習グループは、領域・教科を合わせた指導を主とする教育課程の1学年から6学年までの男子8名、女子4名の計12名の児童で構成されている。日常生活での移動では、不安定ながら独歩可能な児童が4名、PCウォーカーを使用し歩行可能な児童が1名、車いすを使用している児童が7名いる。

運動する機会が少ない児童もいるが、どの児童も体を動かすことが好きで週1回の体育の時間を楽しみにしている。

前題材、「体力測定をしよう」では、マット上での移動、ボールの操作、階段や平均台の歩行などに取り組み、自分が今できること、少しがんばればできることを意識することができるようになってきた。また、活動内容が具体的に分かれると、意欲的に取り組む姿が見られ、運動量も少しずつ増えてきている。

集団行動や運動能力の面で、実態の幅が広い集団であるが、みんなと一緒に取り組むことで、友達を見てがんばろうとしたり、ルールを意識したりする姿が見られるようになってきた。

(2) 題材について

サーキット運動は、マットや平均台、ボールなどいろいろな用具を使った運動を盛り込むことができ、それを組み合わせたコースを設定することで、全身の調整力や持久力を高め、筋力を保持することにより有効な運動である。また、自分のペースや実態に応じて、各コーナーを回りながら達成感を味わえるため、意欲的に取り組むことができる。また、それぞれのコーナーを連続的・断続的に繰り返すことで、実態に合わせた活動量を調整できる。

本題材では、児童の運動におけるねらいを明確化するために、MEPA-Rを実施し、できつつあることに注目し、次の課題やめざす動きを導き出した。車いすから降りた状態で取り組むコースを設定することで、普段使用しない体の部位を動かすことができ、精一杯活動することで、達成感を味わうことができる。また、さらに、同じコースを同じグループの友達と一緒に取り組むことで、友達の様子を見たり、順番やきまりを意識したりすることができる。このように、様々な実態の児童個々の課題に応じて、活動を用意できると考え、本題材を設定した。

(3) 指導について

指導にあたっては、以下の点に留意する。

- ・児童の課題に応じて2つのグループに分け、グループの実態に応じたコースを設定する。
- ・十分に運動量の確保をすることと、安全に配慮することを考えて、順次スタートできるようにし、待ち時間を少なくする。
- ・児童の実態に合わせ、高さや大きさなどに配慮した教材教具を準備する。
- ・児童個々が自分の目標をもって取り組むことができるように、がんばりカードを準備する。
- ・ルールを分かりやすくするため、待つ場所やスタート地点に目印をつける。
- ・意欲的に取り組むことができるように、児童に親しみのあるキャラクターを用い、コースの活動内容は少しずつ変化させていく。
- ・見通しをもって活動に取り組めるように、活動にストーリー性をもたせ、ベルトやコインを取り入れ、一つ一つの動きで止まらずに、次の動きに自然につながるようにする。
- ・友達の活動を意識できるように、授業の終わりには友達のがんばりを紹介する。また、児童がお互いのがんばりを認め合えるように、題材の最後に発表会を設定する。

4 本題材における児童の実態及び目標

	氏名	実 態	目 標
アン パ ン グ ル ー プ	A	<ul style="list-style-type: none"> 階段を手すりをつかんで両足交互に出して昇ることができる。降りる時は手すりや教師につかまり、両足を揃えながら一歩ずつゆっくり降りる。 ボールを蹴ったり、新しい動きでも練習を重ねることで獲得できるものが増えてきている。 やりたい気持ちが強く、待てなかったりルールを理解できなかつたりするが、友達の様子を見て、みんなと一緒に活動することができるようになってきている。 	<ul style="list-style-type: none"> 階段で教師と手をつなぎ、一段ごとに両足を揃え、左右交互に足を出して降りる。 サーキットのコースが分かり、友達の様子を見たり、順番を守ったりしながら、友達と一緒に活動に取り組む。
	B	<ul style="list-style-type: none"> 左側に傾きやすく、自分で意識して姿勢を保つことは難しいが、つたい歩きや PC ウォーカーでの移動ができる。 運動経験が少なく、一人で取り組むことに不安げな表情を見せることが多いが、友達の様子や手本を見ることで、新しいことにも取り組むことができる。 急ぐと安全を意識できない時があるが、なぜ危ないかを伝えることで、気をつけようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 立位で両手を伸ばしてボールを箱に入れるときにバランスを保つ。 PC ウォーカーや手すりにつかまりながら片足を上げる。 自分のペースで安全に気をつけながら、進んでいろいろな運動に取り組む。
	C	<ul style="list-style-type: none"> 両足跳びができ、高さ 3 cm くらいのマットから飛び降りることができる。 体調によっては活動に集中できないときもあるが、活動が分かり、教師の励ましや支援があると簡単な運動に取り組むことができる。 言葉の指示で動作に移るのは難しいが、日常生活の中で繰り返し行っている活動は合図や言葉がけで取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師の手につかまり、高さ 10 cm の台から両足で飛び降りる。 教師の合図や言葉がけを受けてスタートしたり次のコーナーに進んだりする。
	D	<ul style="list-style-type: none"> ぎこちなさはあるが、低い段差を飛び降りたり、教師に片手を支えられて低い平均台を渡ったりすることができる。 活動が苦手だったり内容が分からなかったりすると、動きが止まってしまう。また、好きなことだけをやろうとし、次の活動に移れないこともある。活動内容が分かると意欲的に活動できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師の支援を受けながら、高さ 30 cm の平均台を渡る。 教師や友達が行う様子を見て、新しい課題に挑戦する。 サーキットの流れが分かり、順序よくコースを回ることができる。
	E	<ul style="list-style-type: none"> かかとをつけずに歩くことがあるため、バランスを崩しやすいが、教師と手をつないで線の上を歩けるようになってきた。両足跳びができる。 順番や集合の合図で動くことは難しいが、運動には意欲的に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師と片手をつないで、高さ 10 cm の平均台を渡る。 自分の順番を待ち、教師の合図でスタートする。
	F	<ul style="list-style-type: none"> 慣れない人や場面、運動での緊張や疲れがけいれん発作につながるが多い。体調のよいときには、10 分程度無理のない動きを教師が選択して活動するようにしている。 自力歩行は可能だが、バランスが悪く転倒しやすいため、通常は車いすを使用している。教師が後方から支援すると、立って自分でボールを投げたり、蹴ったりできる。 	<ul style="list-style-type: none"> 平行バーを使って身体のバランスをとりながら、ミニハードルをまたぐ。 教師の合図でボールを箱やバスケットリングに入れたり、蹴ったりする。
マリ オ グ ル ー プ	G	<ul style="list-style-type: none"> 教師の支援を受けながら、仰向けから 1 回寝返りができる。進行方向に好きなものがあると、意欲的に取り組む。手の届く範囲にスーパーボールを提示されると、自らつまもうとする。 大きな集団は苦手だが、教師と一緒に活動を繰り返すことで、泣かずに参加できるようになってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> できるだけ自分の力で 3 回寝返りをする。 スーパーボールをつまみ、教師の支援を受けて提示したケースに入れる。 教師と一緒に泣かずにサーキット運動に取り組む。
	H	<ul style="list-style-type: none"> 腹や肘をつけながらずりばいをする。教師の支援を受け安定したいす座位の姿勢で、ボールを両手で持ち、バスケットリングに入れようとする。 新しい活動には抵抗感があるが、活動が分かり、期待感をもてると意欲的に取り組むことができる。 簡単なルールのある活動が分かり、教師と一緒に順番を守って参加できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師の支援を受けて、曲げた膝を伸ばしながら手足を使ったずりばいをしたり、いす座位で頭より少し高い所の箱に向かってボールを入れたりする。 サーキットの活動が分かり、時間いっぱい取り組む。

マ リ オ グ ル ー プ	I	<ul style="list-style-type: none"> 大きなボールは体につけて両手で抱え、離すことができる。片手で持てる小さなボールは、腕を伸ばして箱などに入れることができる。少しの距離で疲れてしまうが、両腕を交互に出して、ずりばいができる。 苦手なことはやりたがらないことが多いが、興味をもった活動には、意欲的に取り組む。経験したことは覚えて、ルールを理解し、教師の問いかけに応じて選択したり決定したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ケースやバスケットリングに向けて、コインやボールをタイミングよく離す。 2枚分のマットを休まないでずり這いする。 コースが分かり、全コーナーを回る。
	J	<ul style="list-style-type: none"> 左手に麻痺があるため、左手が体の下に入ってしまうこともあるが、ずりばいで移動することができる。 まだ順番は守れないが、何事も自分でやりたがり、やることが分かると意欲的に活動に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 左手を意識して、手足を交互に出してずりばいで移動する。 両手でボールを持って、下手投げでバスケットリングに入れる。 友達の様子に注目しながら、順番を待つ。
	K	<ul style="list-style-type: none"> 手や足を誘導されると右方向への寝返りができる。右太ももの肉離れを起こしやすい為、注意が必要である。ボール保持では、右手に力が入りやすく指が突っ張ってしまうが、上体を安定させると、手を開いて両手でボールを持つとする。 手足に力が入りやすく、思うように体が動かせないが、周囲の雰囲気を感じながら活動し、自分の課題に向かって積極的に取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師の少ない支援で左右に1回転する。 両手でボールを持ち、肘を伸ばして前方のバスケットリングに入れる。 各コーナーの活動目標が分かり、集中して活動に取り組む。
	L	<ul style="list-style-type: none"> 手や足が左右同時に出ってしまうが、四つばいでの移動ができる。前題材では、手足を交互に出すことが意識できるようになってきた。 新しい活動は苦手であるが、活動内容が分かると、最後まで取り組むことができる。 ルールが分かるが、やりたい気持ちが強く守れないことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 手足を左右交互に出して四つばいをする。 教師の言葉がけがなくても、自分の決めた目標に取り組む。 ルールを守りながら活動する。

5 指導計画（総時数14時間）

指導計画	主な学習活動	時数
1 コースを知ろう※ （3時間）	<ul style="list-style-type: none"> 自分が取り組むコースを知る。 ボールコーナーを含めて、自分のコースの回る順序を知る。 	1 2
2 サーキットうんどう をしよう （9時間）	<ul style="list-style-type: none"> 自分の目標を教師と一緒に考えてサーキット運動に取り組む。 自分で目標を決めてサーキット運動に意欲的に取り組む。 自分で決めた目標に向かって意欲的に取り組み、各コーナーで適切な体の動かし方をする。 	3 3 本時（3/3） 3
3 はっぴょうかいをしよう （2時間）	<ul style="list-style-type: none"> 自分の得意な運動を友達に紹介する。 友達の発表を見る。 	2

※コースは以下の2コースを設け、児童の実態に応じて、所属するグループを分ける。

①アンパンマンコース

足上げ、平均台、階段昇降などのバランスを中心とし、支持力や調整力を課題とするコース

②マリオコース

体を支える（支持力）、寝返り、自分で体を動かすなどの筋力アップや体重移動、自分の体のコントロール、ボディゾーン、ボディイメージをつけることを課題とするコース

6 本時の実際

(1) 目標

- ① 個々の目標に向かって、意欲的に体を動かす。
- ② サーキットのルールを守って活動する。

(2) 個別の目標及び評価の視点

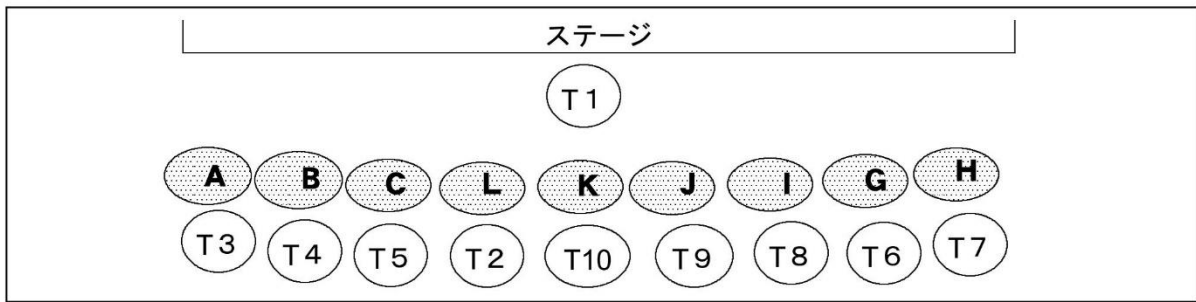
	児童	本時の目標	評価の視点
アンパンマングループ	A	<ul style="list-style-type: none"> ・教師に手と足を支持されながら、階段を一段ごとに両足を揃え、左右交互に足を出す。 ・自分のコースが分かり、次のコーナーに自分から向かう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師に手と足を支持されながら、一段でも自分から降りた足の反対の足を出す。 ・「次は？」の言葉がけをきいて、ボールコーナーとステージのコーナーに自分から移動する。
	B	<ul style="list-style-type: none"> ・バランスを保ちながら両手を伸ばしてボールを箱に入れる。 ・教師の支援を受けながら足を上げてミニハードルをまたぐ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が腰を支えた状態で、肘を伸ばしてボールを離す。 ・教師の支援を受けながら、上げた足を前に出す。
	C	<ul style="list-style-type: none"> ・10 cmの高さのマットから両足ジャンプで飛び降りる。 ・少し離れた場所から教師に呼ばれ、次のコーナーに向かう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が両手を支持した状態で「いちにのさーん」のかけ声に合わせて飛び、両足で着地する。 ・ボールコーナーで教師が呼んだときにステージの上から向かってくる。
	D	※手術後のため別室で学習	
	E	※入院中のため欠席	
	F	※体調を考慮し別室で学習	
マリオグループ	G	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の支援を受けながら、3回寝返りをする。 ・教師の支援を受けながら、スーパーボールをケースの中に入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・緩やかな傾斜のマットで3回寝返りをする。 ・手のひらに握ったスーパーボールを2秒保持して、ケースに入れる。
	H	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の支援を受けて曲げた膝を伸ばしながら、手足を使ったずりばいをする。 ・いす座位で上体を起こし、肘を伸ばしてボールを箱に入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・曲げた膝を伸ばしながら、マットの半分の距離をずりばいする。 ・顔より少し高い所の箱にボールを入れる。
	I	<ul style="list-style-type: none"> ・マットでのずりばいを最後まで止まらずにできる。 ・コーナーでの活動を選択し、自分のサーキットコースを周回する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の励ましやアドバイスを聞いて、一人で最後までずりばいする。 ・教師の問いかけに応じ、次のコーナーを選択し、自分のコースを周回する。
	J	<ul style="list-style-type: none"> ・手を交互に動かすとともに足も動かそうとして移動する。 ・ボールを持って下から上に投げる動作をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・足を曲げて蹴ろうとする。 ・両手でボールを持ち、下から上に両手を上げる。
	K	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の支援を受けながら、右方向へ1回横転できる。 ・両手でボールを持ったまま、腕を伸ばす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・右脇を誘導されると、うつぶせから仰向けになる。 ・教師に右手を支えられながら、左手は指を伸ばしたままボールを持ち、腕を伸ばす。
	L	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の言葉かけを受けて、手足を交互に出して四つばいをする。 ・ルールを教師と確認し、キャスターボードが準備できるのを待つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「右、左」という教師の言葉を聞いて、交互に手足を出す。 ・キャスターボードのスタート地点から出ないで待つ。

(3) 展開

時間	学習活動	教師の主な支援										D	E	F	準備物										
		アンパンマングループ			マリオグループ																				
		A (T3)	B (T4)	C (T5)	G (T6)	H (T7)	I (T8)	J (T9)	K (T10)	L (T2)															
7	1 準備体操をする。 ①ラジオ体操 ②ストレッチ	・十分に体を動かせるように、各部分をゆっくり伸ばすストレッチ運動の図本を示す。														※入 院中 のた め別 室で 学習	ラジカセ CD がんばり カード コース図								
5	2 本時の目標を確認する。 ※自分のコースに移動する。	・自分や友達のがんばるコーナーが分かるように、学習前に児童が顔写真を貼った配置図を提示しながら、目標を確認する。 ・次のコーナーに向かう意欲が高められるように、キキスターボードやマリオコインを用意する。 ・キキスターボードに乗る位置が分かるように、マットを置く。																	※手 術後 のた め別 室で 学習	顔写真 サーキット 用具一式 ※配置図参照					
23	3 サーキット運動をする。 アンパンマンコース ミニハードルで足上げ ジャンプマットからの飛び降り 階段昇降 フープ渡り 直線歩き 平均台渡り ボール入れ ボール蹴り マリオコース マットでの寝返り、 「ザリばい」、四つばい キキスター移動 コイン入れ ボール入れ ボール当て	・順番や始める場所が分かるように、ベンチやフープを用意する。 ・ボールコーナーに向かう意欲が高められるように、ステージ上のコーナーが終わったら、アンパンマンのベルトを渡す。 <階段> ・一段ずつ、次に出す足が分かるように、反対の足の膝を軽く押さえる。 <コーナー移動> ・ステージとボールコーナー間の移動が自分で行えるように、移動時に「次はザリ」と言葉をかける。	<ミニハードル> ・足を上げることを意識できるように、言葉をかけながら、膝裏に手を添える。 <ボール> ・バランスを保ちながらボールを穴に入れることができるように、腰を支える。	<ジャンプマット> ・両手を支持し、「いちにのさん」と言葉をかけ、手前に軽く引き寄せる。 <コーナー移動> ・ボールコーナーに一人で移動できるように、ステージ上の印の所で待つように話し、ステージ下から「よういスタート」と合図する。	<マット> ・最後まで寝返りへの意欲が持続するように、テープを付けたゴールゲートを用意する。 <ボール> ・寝返りが難しいときはマットを傾ける。 <ボール> ・スーパーボールをつまんだら、握っていられるように、手の平に向けて押し、「1、2」と言葉をかける。	<マット> ・「膝を曲げるよ」と言葉をかけてから曲げ、足の裏に手を添える。 <ボール> ・肘を伸ばしてボールを待つことができるように、手を伸ばした位置にボールを提示する。	<マット> ・最後までずり道いができるように、「イチニ、イチニ」「もう少しだよ」などの言葉をかける。 <コース周回> ・自分で選択しながら取り組むことができるようにサーキットコースをどの順番で回るのが最初か尋ねる。	<マット> ・左手が内側に入らないように左腕に手を入れて支える。手だけではなく、足も動かすと速く進むことを伝える。 <ボール> ・左右の肘を伸ばせるようにストレッチを行ってからボールを提示する。 ・下手投げができるように、「下から上」と繰り返して言葉をかける。	<マット> ・うつぶせから仰向けになるように動きに合わせ右腕を誘導する。 <ボール> ・左右の肘を伸ばせるようにストレッチを行ってからボールを提示する。 ・ボールを入れるときは、肩や肘を動かさず、上体をしっかり支える。 ・TIは、向かい合って両手に手を添え「肘を伸ばすよ」と言葉をかけながら引き寄せる。	<マット> ・横で見守りながら、手足が交互に出ないときには「右、左」と言葉をかける。 <キキスターボード> ・キキスターボードの準備ができるまで待てるように、スタート地点で約束を確認する。					・意欲や達成感もてるように、個々のねらいとする動きができたときには、その場で称賛する。										
10	※集合する。	・TIは、全員が気付くまでベルを鳴らして活動の終わりを知らせ、「集合」を呼びかける。																							
4	4 まとめをする ・目標を振り返り、シールを貼る。	・個々に本時の目標を振り返ることができるように、がんばりカードをもとに問いかけたり、写真を提示したりする。 ・次時への意欲につながるように、数名のがんばりを紹介し、称賛する。																							ベル バン シール

(4) 配置図

<集合時>



<サーキット運動 活動時>

